

第4節 みどり・自然共生 自然の恵みが実感できるみどり豊かな社会の形成

[1] 環境の状況

本市のみどりの現況を見ると、市域南部では、比較的小規模なみどりが点在する程度ですが、市境に大規模な水面である神崎川と安威川が流下しています。市域中部では、多くの農地が点在しています。市域北部では、ため池を含む大規模な公園・緑地などのまとまったみどりや、千里ニュータウンを始めとする豊かな住宅地のみどりが分布しています。

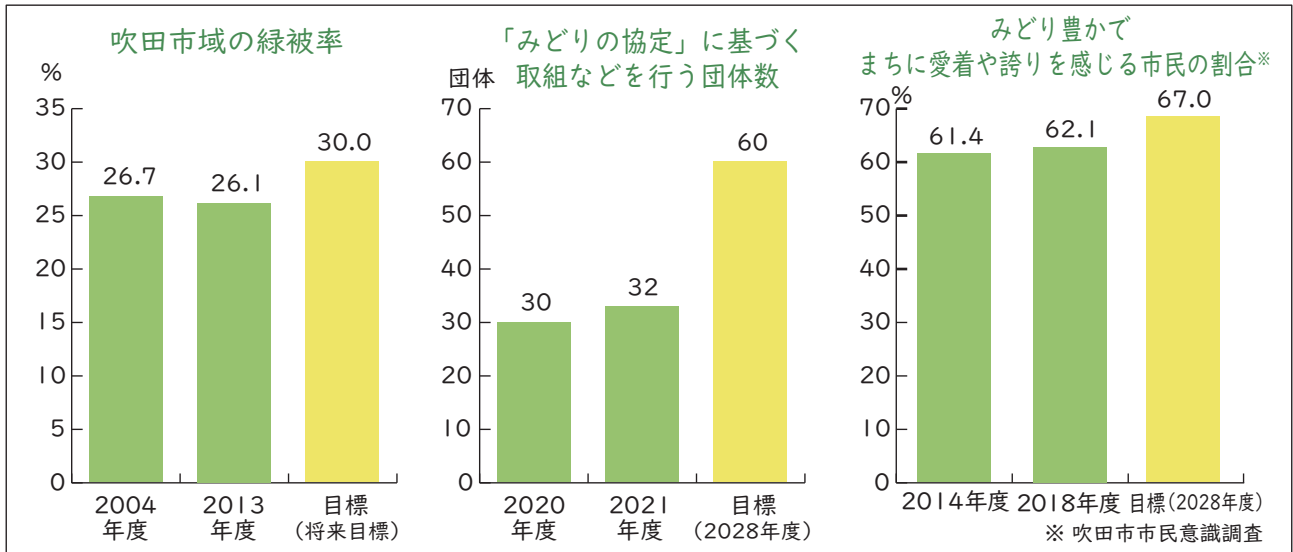
近年、本市ではみどりの面積が減少しており、2009年(平成21年)から2014年(平成26年)までの5年間における減少量は、1993年(平成5年)から2009年(平成21年)までの16年間の減少量の約1.6倍に匹敵しています。これは、マンションや戸建住宅などの宅地開発に伴って、既存のみどりが失われていることが大きな要因

となっています。

みどりには、様々な役割があります。例えば、多様な生き物の生息・生育の場となっており、生態系を保全する機能があります。また、二酸化炭素を吸収して地球温暖化の防止に寄与し、蒸発散作用により夏の気温を下げ、ヒートアイランド現象を緩和する機能があります。さらに、みどりとのふれあいによる心身のリフレッシュや、散策や運動などのレクリエーションを通じた健康づくりを実現することもできます。都市におけるみどりは、快適で美しい景観をつくれます。また、災害時の安全性を高めます。

このようなみどりを保全し、心がやすらぎ、人と地域と自然を育むみどりのまちづくりを進めていくために、市民、事業者、行政による連携・協働の取組を進めていきます。

代表指標の進捗状況



指標の進捗状況

指標	2019年度	2020年度	2021年度	目標値 2028年度
市域面積に対する緑地面積の割合	15.4% (2014年度実績)	15.4% (2014年度実績)	15.4% (2014年度実績)	20% (将来目標)
市民1人当たりに対する都市公園面積	8.7㎡	8.7㎡	8.6㎡	10㎡ (将来目標)
緑あふれる未来サポーター制度(公園)の登録団体数	101団体	91団体	96団体	120団体

[2] 施策

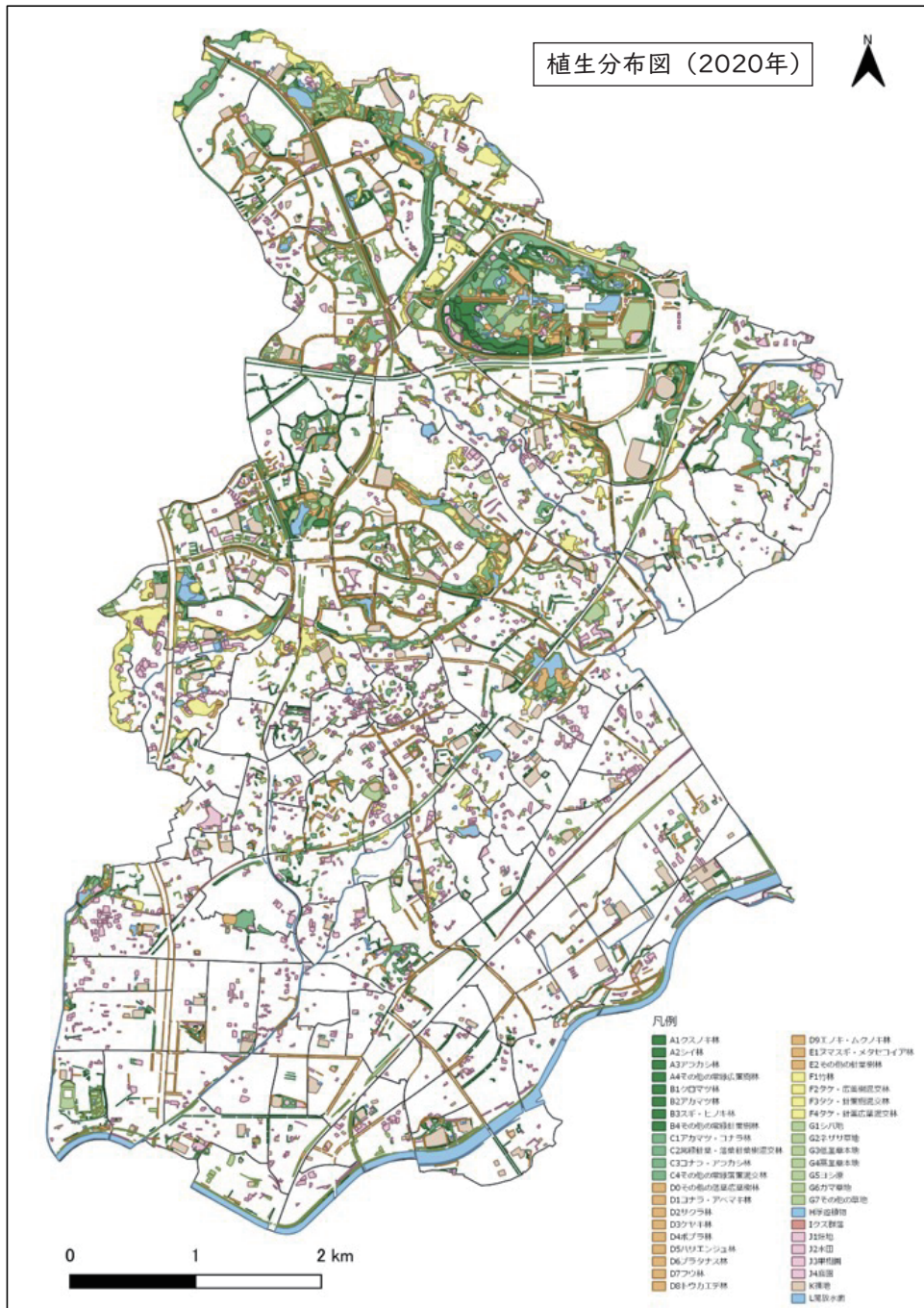
■ 自然環境調査「すいたの自然2021」

本市は、2020年度(令和2年度)から2年かけて、自然環境の現況を調査し、2022年(令和4年)3月に「すいたの自然2021」としてとりまとめました。

自然環境調査では、植物の分布状況を確認し、市域の植物の分布図(植生分布図)を作成するとともに、目視や採集等の詳細調査を実施し、市域の自然環境の特性や環境の変化について把握しました。調査の結果、植物については、前回調査時から開発等により植生面積が減少したものの、植物相に大きな

変化はなく、動物については、アライグマ等の外来生物の増加や水田の減少によるトノサマガエルの減少等が明らかになりました。

また、農耕地や、定期的に草刈りが行われ草丈が低い状態に維持されている草地において、全国的、大阪府内でも特に希少性の高い植物が多く確認されました。本調査を通じて、本市は、全域が市街化区域でありながら、市街地の中にも多くの希少な自然が残されていることが明らかになりました。



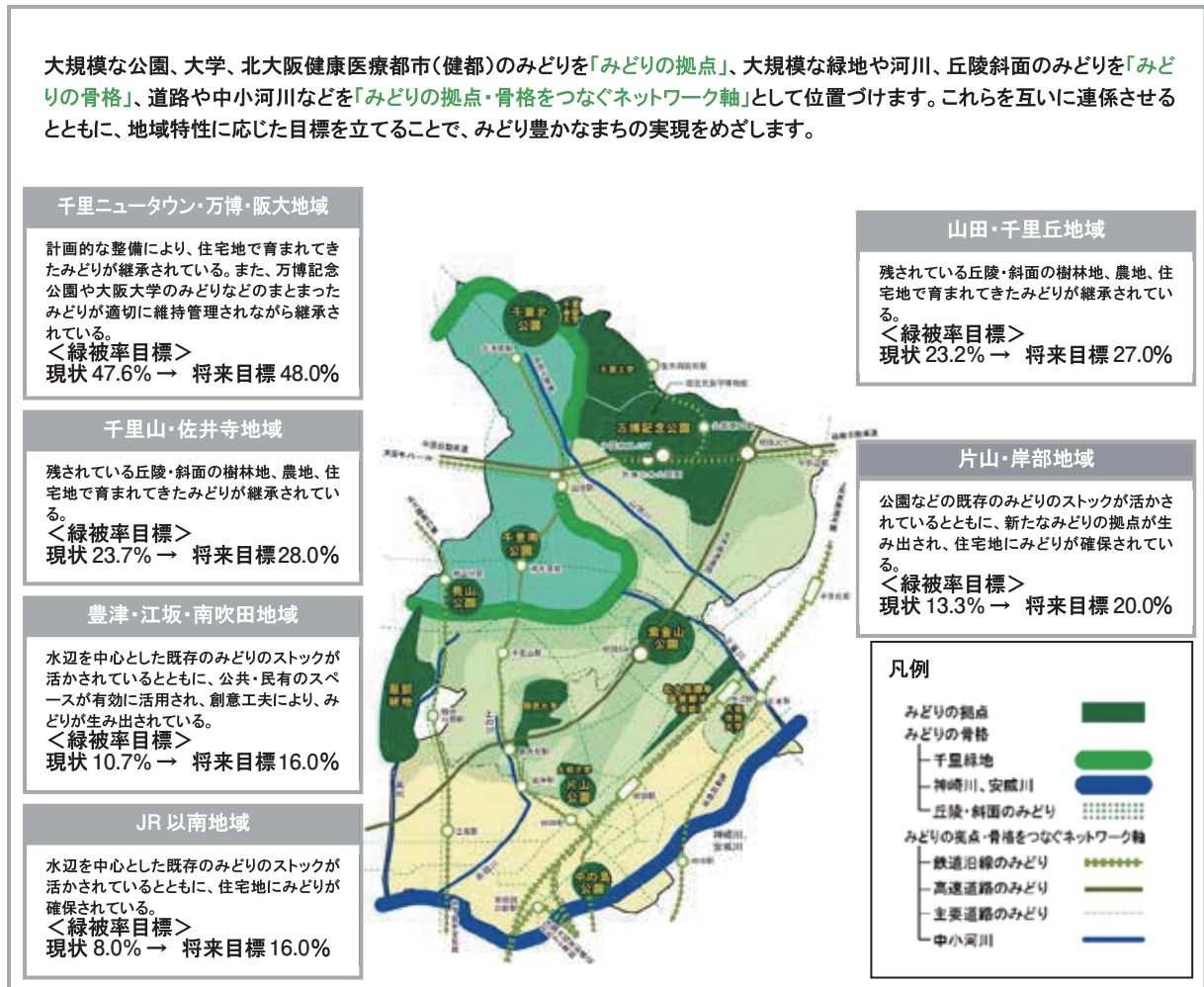
■ 吹田市第2次みどりの基本計画（改訂版）

本市では、市内の緑地の適正な保全と緑化の推進を総合的・計画的に行うため、都市緑地法に基づく「みどりの基本計画」を策定しています。2016年（平成28年）8月には、第2次計画の策定から5年が経過したことから、社会情勢の変化や法制度の変更などを踏まえて改訂を行いました。

本計画で定めたみどりの将来像の実現に向けて、「心がやすらぎ、人と地域と自然を育むみどりの都市すいた」という基本理念のもと、4つの基本方針に基づき、みどりのまちづくりに取り組んでいます。

みどりの将来像と緑被率目標

大規模な公園、大学、北大阪健康医療都市（健都）のみどりを「みどりの拠点」、大規模な緑地や河川、丘陵斜面のみどりを「みどりの骨格」、道路や中小河川などを「みどりの拠点・骨格をつなぐネットワーク軸」として位置づけます。これらを互いに連係させるとともに、地域特性に応じた目標を立てることで、みどり豊かなまちの実現をめざします。



基本方針

基本方針 1 みどりを継承する	今ある民有地のみどりを次世代へ継承する 今ある公共のみどりを次世代へ継承する
基本方針 2 みどりを生み出す	地域に応じた創意工夫により、みどりを生み出す 地域に応じたみどりの拠点をつくる
基本方針 3 みどりを活かす	生物多様性を保全し、人と生き物に配慮したみどりのネットワークの形成を進める 今ある公園・緑地を充実する 人と地域を育む場としてみどりを活かす
基本方針 4 市民参画・協働により、みどりのまちづくりを進める	市民参画・協働を支える仕組みをつくる 市民参画・協働による取組を進める

■ 都市公園・緑地

本市の都市公園は、2022年（令和4年）3月末現在、138か所326.14haです。市民一人当たりの公園面積は、8.6m²です。一部の都市公園・緑地では、自然環境を保全するための市民活動が展開さ

自然環境保全活動が行われている代表的な都市公園・緑地

公園・緑地名	象徴的な生き物 又は代表的な自然環境	活動団体
紫金山公園	コバノミツバツツジ	紫金山みどりの会
千里第4緑地	ヒメボタル、里山林、竹林	吹田みどりの会、竹林友の会
桃山公園・千里第7緑地	竹林	千里竹の会吹田
千里第2緑地	里山林	すいた里山倶楽部

れています。本市は、これらの活動に対して、資器材・腕章の貸し出しや、災害補償のための保険に加入しています。

■ 保護樹木・保護樹林

本市は、幹周りが2m以上などの基準を満たす古木、大木や樹林について、所有者・管理者の同意を得て、保護樹木・保護樹林に指定しています。

2022年（令和4年）3月末現在、保護樹木は52本、保護樹林は3か所です。

■ 森林整備計画と森林病虫害等防除

本市は、森林法に基づき、「吹田市森林整備計画」を策定し、森林整備の方法に関する事項、森林病虫害の駆除又は予防その他森林の保護に関する事項等を定め、当該保安林の自然環境の保全や、風致・景観の維持向上に配慮し積極的な保全整備に努めるものとしています。

市内3か所（伊射奈岐神社風致保安林及びその

周辺森林、垂水神社風致保安林及びその周辺森林、素盞烏尊神社風致保安林及びその周辺森林）にある森林では、近年ナラ枯れ（カシノナガキクイムシが媒介する菌による枯死）が発生しており、多くの大径木が枯死又は枯死の危険性があることが確認されたため、本計画及び森林病虫害等防除法に基づき防除作業を進めています。

■ 生物多様性の啓発

本市は、定期的に市内の動植物の生息・生育状況を調査し、自然環境の現況を把握するとともに、市役所本庁舎など2つの公共施設に在来の水生生物の水槽「まちなか水族館」を展示することなどにより、水辺の環境保全の大切さを通じて、生物多様性の保全、啓発を行っています。

2016年（平成28年）に、環境省の公募事業へ参画したことを契機として、本市は能勢町とともに森里川海の適正な管理と活用による「地域循環共生圏」の構築に向けた取組を進めています。2018年（平成30年）3月に設立した能勢の里山活力創造推進協議会において、2019年（令和元年）8月に「里山DAYCAMP in NOSE」、10月に「収穫体験&自然観察会 in 能勢」を開催しました。2021年度（令和3年度）は、豊中市が加わり、2市1町で「里

山DAYCAMP in NOSE」を開催しました。両市町間の連携をより具体的なものにするために、「吹田市公共施設等への能勢町産等木材利用推進検討会議」を2019年（令和元年）5月に設置し、公共施設における能勢町産等木材の利用推進に向けた検討を進め、「吹田市公共施設への木材利用推進ガイドライン」を策定しました。

生物多様性の啓発を進めるため、生物多様性の現状や吹田市の生物多様性について分かりやすく平易な内容で解説した冊子：「いろいろな生きものがいたよかった～生物多様性と私たち～」を2017年（平成29年）に作成しました。

